

2004おしんレース 大雨の中開催

2004.6.20 日本海 triathlon おしんレースは今年で19回目を数える。時折大雨が降る中250名弱の鉄人たちはトータル 51.5 キロの Olympic と同じ距離に挑んだ。

今年はアテネOlympicの年、おしんレースは10月24日開催の日本選手権大会東北ブロック代表選手選考大会として開催されるもの。合わせて、東北地区のナンバーワンを決める「東北選手権大会」「山形県選手権大会」と併設された大会だ。



2004.6.19(土)第19回おしんレースを前に、選手ボランティアが一同に会し交流会が開かれた。いつもだと、農協の大広間を使っているのだが今年はそとでかいさいとなった。

雨の合間という感じだ。司会は加藤豊さん、いつもながら名調子です。



鶴岡市役所勤務五十嵐憲選手、数々の海峡を単独で泳ぎきっていることは有名、リレーで参加だ



菊地次郎選手、フィアンセと一緒に





前夜祭には多くのボランティアも参加、選手と同じ人数のボランティアが一体となってレースを盛り上げる。八柳実行委員長、加藤彰事務局局長以下手馴れたスタッフが大会運営をサポートしていく。



招待選手の紹介、菊地次郎・川原勇人・中本洋平・八代純子・西野昌宏・内野恵里・濱野隆弘の各選手が紹介された。

レース当日は大雨



この日は朝から激しい雨、しかし、午前6時前から実行委員は集まり、ボランティアも次々集まってくる。酒田商業高校水泳部のほか多数だ、特性の雨合羽(ビニール袋で作った)着て、各持ち場の担当者から説明を受ける。

Swim スタート 午前9時



《Swim 規則》

- ・ 一周 750m.の三角コースを2周回する。
- ・ 周回時に浜に上陸し周回チェックを受ける
- ・ ウエットスーツの着用を義務付ける
- ・ 浅瀬は歩行しても構わない
- ・ スイムの時間は、ミニラン 400m 後バイクスタートまでとする
- ・ 制限時間は 60 分

Swimは、比較的穏やかな海面で泳ぎ安そうだ。トップの選手は2周回で20分を切る勢い、日本選手権代表選手選考にふさわしく、その位置を狙う上位の選手は招待の各選手のほか、長谷川健(村上塾酒田市出身)昨年日本選手権大会18分50秒でswimをクリアした宮城県中川亮選手、そして最近再びやる気を出してきた遊佐町役場荒木茂選手などが次々swimを終えた。



《BIKE 規則》

- ・ 往復13キロのコースを3周回する
- ・ 全員サイクルコンピューター装置着用義務
- ・ ナンバーカードは後ろに付ける
- ・ 周回チェックのためヘルメット前方が横、BIKEに1枚
- ・ ドラフティングは禁止する
- ・ 直角カーブ、S字コーナークランクのある箇所
- ・ 指定された場所でDHポジションは禁止
- ・ 制限時間3時間



今年もちろん優勝を狙った山形泌尿器クリニック triathlon チーム所属、山形県の雄である菊地次郎選手は前輪パンク、フィアンセはえ〜ん・え〜んと悔し泣き？
 なぜか菊地次郎選手は笑っているのだ。その後パンクを修理レースに戻る・・・
 総合

ラン 10 キロ 3 周回



《run 競技規則》

- run コースは防波堤 3.3 キロを 3 周回
- ナンバーカードは前に付ける
- 一部不整地があるため、シューズの着用を義務付ける
- 周回チェックの際、リストバンド青・黄色・赤をもらいゴール
- 周回は間違わないよう 1・2・3 と決められたゲートを走行する
- コース内は左走行とする
- フィニッシュゲートをくぐったら速やかにゴール計測を済ませる
- Run コースは、swim スタート後 4 時間で閉鎖



写真右は、遊佐町出身荒木茂選手、東北 triathlon サーキット戦で常勝、シドニー-Olympic に挑戦、職場で送る会を結成した事がある。結婚し競技者として円熟味増してきた。写真右下は、山形泌尿器クリニック triathlon チーム安達崇晃選手で17歳の期待の星だ。今年は父子3人で出場した。写真右は、酒田市小林恵選手、毎週 triathlon 三昧だとか、写真真下は、チームトップロードの会長高橋光弘選手、今大会の大口スポンサーでもある。最後はチームメートと記念写真。



最後のランナーが到着すると、優勝選手以上の拍手が沸いた、大会が無事終了し、閉会式が始まる。表彰式壇上にもテントが運び込まれる。雨脚が一層激しくなる。